

## 南相馬市民に告ぐ

平成23年8月22日

高橋 亨 平

東日本大震災・津波という黒い悪魔・更に原発事故と最悪の事態が続き、最悪の環境の中で市民たちは必死に戦っています。将来の子供達を守るために、5月から子供、妊婦にフィルムバッジを着け、線量測定を行い、線量の高い妊婦、子供の生活指導をしながら頑張っております。妊婦の家の除染活動、泥まみれ、汗だくになりながら必死に戦っているつもりです。そして除染研究会のレベルもかなり上がり、子供と妊婦を守る自信もついてきたと思います。プロ軍団も徐々に成長し一人歩きできる様になりました。測量チームがありとあらゆる場所を、5cm、1m、2mと、2日かけて2回測定、除染工事者に現場で指示し、終了後も2日かけて検証しOKを出し反省会にかけます。最初に行なった所は、2回やり直し、更に屋内天井の工事をする事が決まり、これで完璧という事になります。工事費は何処からも出ない事も分かりました。国、県、自治体、全国福祉協議会、日本赤十字、赤い羽根共同募金会、測量チームに対する、経済的支援をお願いしてみましたが何処も理解せず簡単に、

断られました。

全て私が自腹を切って支払う事にしました。(そうしないと時間がないからです。) 感じてはいたが、日本の社会とは矢張り、こんなもんなんだと言うことを何をしても思うこの頃です。

所で市民の生命を守る、5病院が必死に頑張っているが危ない、各科の先生方も疲弊し、看護師、検査技師、医療電子技師、レントゲン技師、あらゆるコメディカルの人が足りなく限界です。企業も人が足りない為、消滅しつつあります。いったい南相馬の市民達は、何処を放浪しているのだろうか？ あと1年も経たない内に、南相馬の病院は全て破産すると思います。多分南相馬村となってしまいます。南相馬崩壊するのをじっと待つ狙っている市長がいます。ある、病院の理事長が泣き泣き私に助けを求めてきました。お前の病院は既に潰れている。医者も足りないし従業員も、コメディカル数も足りない。潰して仕舞いなさい。我々は隣の市に福島医大の教授とコネクションを持ち我々の市に新しい病院を作るんだ。だからお前たちは必要無い、必死になって再建しようとしている理事長の後姿に、何も出来ない自分に苦しみがのこった。南相馬市民よ子供の安全は何とか守れる。

だから遊びほけていないで早く戻ってくれ！！

そしてアラモの砦で全滅したデビークロケット、やジムボウイがまだ生きている内に、早く復興に手を貸してくれ！！ 南相馬のプライドにかけて私も命がけで書いている。酒もパチンコも、やめてその金を持って帰って来い！！